

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-オ	交流と貢献による離島の新たな振興	施策	島しょ性を生かした技術開発の推進
			施策の小項目名	
主な取組	特殊病害虫特別防除事業			
対応する主な課題	離島の地理的特性や亜熱帯・島しょ性を生かした様々な研究開発、技術開発等を推進し、本県のみならず、アジア・太平洋地域の共通課題について離島からも積極的に発信し、離島の新たな振興へとつなげていく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
特殊病害虫であるウリミバエのトラップ調査等による侵入警戒調査、ウリミバエ不妊虫放飼法による侵入防止防除対策を実施。イモゾウムシ及びアリモドキゾウムシの根絶防除対策、ナスミバエ等の被害軽減及びまん延防止対策を実施。		侵入警戒調査及び侵入警戒防除の実施(ウリミバエ)				
		イモゾウムシ・ナスミバエ等の根絶防除・まん延防止の実施				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	農林水産部営農支援課 【098-866-2280】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	特殊病害虫特別防除事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
	主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	
一括交付金(ソフト)	直接実施	1,237,697	1,097,412	1,145,252	1,453,125	1,196,568	1,431,851	一括交付金(ソフト)	R3年度: 防除等(ウリミバエ161回、ゾウムシ類348回) R4年度: 防除等(ウリミバエ161回、ゾウムシ類51回+適宜)

様式1(主な取組)

活動指標名	ウリミバエ防除等回数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	159	157	159	160	161	-	100.0%	1,196,568	順調	ウリミバエ防除は、トラップ調査26回、果 実調査2回、不妊虫放飼133回(4地域)実 施。ゾウムシ類は津堅島・久米島でトラップ 調査・寄主除去等を348回実施。
活動指標名	ゾウムシ類防除等回数				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	769	326	326	379	348	-	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 ウリミバエ防除対策では、不妊虫放飼等を 計画に沿って実施したところ、寄主植物の移 動寄生を伴う緊急防除の発令はなかった。津 堅島においてアリモドキゾウムシの根絶防除 対策を行った結果、根絶が達成された。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、予算の確保とともに施工状況の把握に努め、繰越等の検討も行い早期完了を目指す。 共同して対策を実施する市町村等に対して、対策への理解を求めるとともに、技術的助言を行って、侵入発見精度の維持を図る。 津堅島におけるゾウムシ類根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに根絶対策を継続する。 						<ul style="list-style-type: none"> ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕及び改築について、予算の流用や繰越も活用して対応している。 対策を行う市町村に対して技術的助言を行い、侵入発見精度の維持を図っている。 地元市町村との連携により、再侵入防止対策とともに根絶に向けた対策を実施している。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・ウリミバエ不妊虫の生産及び放飼を中断することなく継続することが重要である。計画的な修繕及び改築等により機能維持に努める。・ミカンコミバエの誘殺は、年によって増減するが毎年確認されており、緊急対応とともに実施する市町村等との連携維持が重要である。・津堅島でゾウムシ類根絶を維持するため、防除員の確実な配置が必要。	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の発生により、施設改修工事に若干の遅れが生じている。・本県は、ミバエ類が発生している近隣諸外国に近いため侵入リスクが非常に高い。近年はミカンコミバエの誘殺頭数が増加傾向となっている。・津堅島において、アリモドキゾウムシの根絶が達成された。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕について、予算の確保とともに繰越の検討など状況の変化に対応する。
- ・侵入リスクの高まりに対して、侵入警戒や初動防除等の対応の重要性が高まっている。関係機関との連携維持・強化に努める。
- ・津堅島でアリモドキゾウムシの根絶が達成されたことから、引き続き侵入警戒調査とイモゾウムシの根絶達成に向けて調査及び防除を行っていく。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕について、予算の確保とともに施工状況の把握に努め、繰越等も行い早期完了を目指す。
- ・共同して対策を実施する市町村等に対して、対策への理解を求めるとともに、技術的助言を行って、侵入発見精度の維持を図る。
- ・津堅島におけるゾウムシ類根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに根絶対策を継続する。